

21番	中川昌也 議員		
項目	今後の市政運営及び、平成31年度当初予算編成について		項目
<p>(要旨)</p> <p>1、2期目を目指される伊藤市長のこれからの市政運営と、平成31年度当初予算を編成するにあたっての考え方について</p> <p>① 伊藤市政4年間の課題と、その克服に関する考え方について</p> <p>伊藤市政4年間の成果と、第6次総合計画の策定時点に想定できなかった市政運営での新しい課題について、2期目を目指されるにあたり、どのように感じているのか伺います。</p> <p>また、新しい課題について、どのように克服していこうと考えているのか伺います。</p> <p>② 平成31年度当初予算を暫定予算とせず、本格的な予算編成とした理由について</p> <p>平成31年度当初予算の大綱説明で、市長の意気込みを説明されましたが、選挙がある年度の当初予算は、市民生活に支障をきたす政策を除き、新規の政策に関する予算は組み込まない暫定型とし、選挙で新しい政策の是非を問う方法が一般的との考え方もあります。そこで、平成31年度当初予算を本格的な予算編成とした理由について伺います。</p>		<p>(要旨)</p> <p>2 平成31年度予算案の内容について</p> <p>① 平成31年度当初予算の編成における考え方について</p> <p>過去にも同様の質問をしていますが、税収の大幅な増加が見込めない一方で、社会保障費の増加は更に進んでいく昨今、我慢する政策と集中して進めていく政策を区別し、それらを市民の皆さんに理解を求めながら進めていくことが大切だと思います。今回の予算も、これまでどおり偏りなく配分しているように見えます。今こそ、右肩上がりの経済での配分の思考ではなくて、痛みを分かち合う選択と集中の思考での予算編成が必要な時期と認識しているのに、そうしなかったことについて、市長の考えを伺います。</p> <p>② 未来への投資は、どのような効果をもたらすのか</p> <p>市長は、予算大綱説明の冒頭で未来への投資を強く意識した予算編成だと強調されていましたが、未来への投資を実行することで、どのような効果をもたらすと考えているのか伺います。また、その効果は、翌年度には期待できるものなのか、数年先にしか評価できないもののかも説明すべきと思いますので、期待する効果を達成する期限についても市長の考えを伺います。</p>	

21番	中川昌也 議員		
項目	今後の市政運営及び、平成31年度当初予算編成について	項目	
<p>(要旨)</p> <p>③ 「にじの丘学園」の整備に伴う学校跡地の利用について</p> <p>平成32年4月に開校する「にじの丘学園」の整備に伴って廃校となる小中学校跡地の利用については、地域の大きな期待を背景に、活発な意見出しが行われていますが、市からは、PFIをはじめとした民間資金による住宅分譲などが提示され、3年前の約束と違う考え方に多くの市民の間で混乱が生じているのではないかと感じます。これまで地域の小学校が担ってきた防災機能をはじめとしたまちの機能の保障をどうするか議論がされないまま、早急に結論を急ぐよりも、どのようなまちの機能を保障すべきか、その運営は誰がやるのかといった議論を尽くすことが必要と考えます。そうした議論を後回しにして、民間活力導入の調査を最優先にしなければならないと判断したことについて、市長の考えを伺います。</p> <p>④ 平成32年度から始まる小中一貫教育の具体的な内容について</p> <p>瀬戸市は、平成32年4月から、全ての小中学校で小中一貫教育を推進すると宣言していますが、その具体的な内容は未だに情報発信が無く、市民の関心の高さに応えていない状況にあります。スタートまで残り1年間のタイミングで、PTAをはじめとした市民の皆さんに、 (つづく)</p>		<p>(要旨)</p> <p>市長の思いを発信しておくことが重要と考えますので、瀬戸市の未来を託す子ども達をどう育てようと考えているのかについて、市長の考えを伺います。</p> <p>⑤ 公共施設等総合管理計画の投資に関する説明責任について</p> <p>瀬戸市は、平成28年度に瀬戸市公共施設等総合管理計画を公表し、これからは新たに公共施設を建設しないという決意と、計画的な進行管理を掲げています。平成31年度の当初予算が過去最高額となる主な理由は、この公共施設対策との説明でしたが、これからどれだけやらなければいけないことがあり、その優先順位の説明も無いまま、平成31年度にやりたいことだけを説明しても、真に市民の理解は得られないと思います。そこで、改めて、少なくとも5年先までのやらなければいけないことと、その優先順位を示したうえで、平成31年度に選択した政策がベストなものだとする市長の考えを伺います。</p> <p>また、平成30年度に、公共施設の個別計画を策定するよう副市長が指示されたと説明を受けていますが、平31年度は、それらの計画が全て揃ったうえで、優先順位が判断されたのかについても伺います。</p>	

21番		中川昌也 議員	
項目	今後の市政運営及び、平成31年度当初予算編成について	項目	
<p>(要旨)</p> <p>⑥ 市民協働で何を指すのかについて</p> <p>伊藤市政4年間で、市長は市民との協働を常に意識していると発言されてきましたが、次期4年間も担われる事となった場合に、何を市民と協働しようとしているのでしょうか。市長が考えるこれからの市民協働とは何か、それを実現するには、これまでと何を変えるのかを示すことが必要だと思います。また、市民に求めるだけでなく、市役所自らは、どんな責任を果たすのかの説明も必要だと思います。そこで、2期目を目指されるにあたり、これからの市民協働で何を指すのかについて、市長の考えを伺います。</p> <p>⑦ 増加し続ける社会保障費への対応策について</p> <p>6年後の2025年には団塊の世代が後期高齢者になり、高齢化社会の拡大による社会保障費の劇的な増加が間近に迫っています。増加し続ける社会保障費への対応策は、我が国社会全体の課題であり、国の政策だからと安穩としていることはできない事態だといえます。特に、これまでの都市間競争で、若年層への医療費の無償化や、様々な社会保障の向上に関する政策が実行されてきましたが、今後も、市民のニーズという要望を背景にした政策の追加を続けることは困難だといわれています。 (つづく)</p>		<p>(要旨)</p> <p>そうした課題に対して、今からやっておかなければいけない事は何なのか、継続することが困難なサービスは無いのか、それをいつから実行しようと考えているのかについて、市長の考えを伺います。</p> <p>⑧ 90周年イベントは必要なのかについて</p> <p>平成31年度予算でも、日本遺産やせとまちブランディング、シティプロモーション、市制90周年といった賑やかな言葉が上がっていますが、新しい政策に回す予算の余裕が無いと言われる時に、お祭りを最優先にしなければならない理由は何なのでしょう。本来であれば、予算をかけない方法を提案することもできたと思いますが、それでも、これからの市政運営にとって、イベントが優先だと考える市長の考えを伺います。</p>	

21番	中川昌也 議員	
項目	今後の市政運営及び、平成31年度当初予算編成について	項目
<p>(要旨)</p> <p>⑨ 税収を増やす政策の必要性について</p> <p>企業誘致の実現は、税収を増やす効果だけでなく、市民の安定的な雇用を生み出す効果もあり、総合的なまちづくり政策と言えます。一方で、企業誘致で生み出された雇用が、地域の定住人口として定着することも大切な政策であり、まちづくり全体のバランスを考えると、企業誘致と連動した住宅政策も大切な要素だと思います。そうした総合的なまちづくりを実現するためにも、企業誘致の種地として購入した品野地区の公共交通最寄り駅となる中水野駅周辺の区画整理事業の推進は有効な政策と言えますが、企業誘致と区画整理のタイミングが合わなければ政策の意味が薄れてしまうことも否定できません。そうした税収を増やす総合的なまちづくりの考え方について、新たな企業誘致の取り組みや中水野駅周辺の区画整理の目標や期限について、市長の考えを伺います。</p> <p>⑩ これからの瀬戸市に必要な都市のインフラの整備について</p> <p>定住人口の確保の必要条件の1つに社会インフラの整備率があげられますが、それらの社会インフラを、単純に道路や公共交通機関だけでなく、子育て環境や、買い物環境を含めた感覚でとらえることが大切だと思います。(つづく)</p>	<p>(要旨)</p> <p>そうした総合的な都市の社会インフラの整備に関する基本方針と、これから必要と考える社会インフラをどのように実現しようと考えているのかについて、市長の考えを伺います。</p> <p>3、瀬戸市の財政運営と組織改革について</p> <p>① これからの財政運営上の課題認識について</p> <p>これまでも様々な場面で、人口減少による税収減少と、高齢化の拡大による社会保障費の増加が避けて通れず、これからの財政運営は更に厳しくなることが予測されると説明されてきましたが、これからの財政運営上の課題をどのように認識されているのか伺います。</p> <p>② 財政運営上の課題に対する解決方法</p> <p>これからの財政運営上の課題に対して、どのように課題を解決しようと考えているのか伺います。</p>	

21番	中川昌也 議員		
項目	今後の市政運営及び、平成31年度当初予算編成について		項目
<p>(要旨)</p> <p>③ 平成31年度の国の補助金獲得に関する対応について</p> <p>厳しい経済環境の中で健全な財政運営を行うためにも、国の補助金獲得は大変重要な要素になりますが、多くの自治体も同様に捉えていると思います。今後は、そうした都市間競争を勝ち抜き、他市に先駆けて国の補助金を獲得する動きが必要になってくると思いますが、市長の戦略と、具体的な行動に関する考えを伺います。</p> <p>④ 市政全体のマネジメントについて</p> <p>昨今自治体の財政運営には、組織の基本方針を示し、組織の目標を設定し、その目標を達成するために組織の経営資源を効率的に活用したり、リスク管理などを実施する、マネジメントが必要と言われていきます。そうした観点で、公社や一部事務組合を見ると、平成30年度に消防本部移転用地として購入された土地を更地にされましたが、平成31年度予算案には設計費などの具体の予算が計上されていません。消防本部の移転時期が確定していないタイミングで用地を購入したのであれば、今後の利子負担も含めて、大きな負の資産となってしまうことが懸念されるので、消防本部移転用地を負の資産としないための考え方を伺います。</p>		<p>(要旨)</p> <p>また、陶生病院への負担金増加や、尾張東部衛星組合のゴミ処理施設更新に関する負担金増加も、過去最高の予算編成になったこと理由の一つに挙げられるのに、その説明がないままでは、市民目線で受け入れられるのか疑問に感じます。そこで、改めて市政全体のマネジメントを明らかにする必要があると考えるが、市長の考えを伺います。</p> <p>⑤ 終わりのない組織改革について</p> <p>これまで質問してきた様々な政策や戦略の実行には、組織の横断的な機能の連携が不可欠だと思います。一方で、これまでの組織改革の議論では、まるっとミュージアムとシティプロモーションの活動の違いが判りづらいなど、これからの市政運営にとっての矛盾を解消することも必要だと思います。</p> <p>そうした意味で、最後に、これからの瀬戸市の政策を推進するための組織の横断的な連携や機能とは何か、それを実現するために必要な組織改革をやろうと考えているのか、それはいつまでに実行しようと考えているのかについて、市長の考えを伺います。</p>	